

【オナニー愛好家】

変態ドHな女の子はオナニーグッズ買いに行くだけでも
いっぱいオナニーしちゃうの

双葉

「ぱちぱちぼいす」

双葉

「オナニー愛好家く変態ドHな女の子はオナニーグッズ買いに行くだけでもいっぱいオナニーしちゃうの」

イントロダクション

双葉

「オナニーが大好きで、すぐにどんなオナニーをしようか考えちゃう女の子。」

双葉

「ついに好奇心からローターなどのえっちなグッズを買いに行くことに。」

双葉

「でも街中にはえっちな誘惑がいっぱい！」

双葉

「妄想が止まらず我慢も限界！ついオナニーをはじめてしまう……！」

／★トラック１…学校から帰宅した少女はすぐオナニーしちゃうの

●ヒロインの部屋

双葉

「ただいまあゝ……………はーっ、今日も疲れたあ。先生の話、長すぎるから思ったより遅くなっちゃった」

双葉

「さっ、オナニーオナニー。学校ですっと我慢してたからすっごく溜まっちゃった」

双葉

「学校でもオナニー休憩室とかあったらいいのに……普通、人は3時間もすればムラムラするんだから、もっと世の中にそういう配慮って必要だよな」

双葉

「今日のオカズはこれ！ はあゝゝっ、昨日の夜はオナニーしちゃった後だったからできなかったけど、まさかこんなにエッチな動画に巡りあえるなんて」

双葉

「サンプル動画だから短いけど、この剥き出しのクリトリスにローターを押し付けられるプレイ……私もやられてみたいなあ」

双葉

「あ、ああ……私も……ふああっ、私もおゝゝっ」

双葉

「んは、あっ、指で……ローターなんて持ってないから……ひんっ、指で擦って……」

双葉

「あ、ああっ、もう、おまんこ、びりびりする、う、あっ……おまんこ、もう、ぬるぬるで……ふあっ、ていうか、学校で、我慢してた時から、ぬ、濡れちゃってたし……」

双葉

「ふああっ、これ好きい、んあっ、クリオナ、あ、あっ、クリトリスぐりぐりするオナニー好きなのおっ！」

双葉

「今日は、まだ、お母さんもないから、あ、ふあつ、大きな声、出せるし、い、ひ、ああああつ！！！」

双葉

「んは、あ、ふあつ、う、は、ん、はああつ……あああつ、は、あつ、んはあああつ、ひ、はあつ、ああああんっ！！！」

双葉

「これえっ、んあつ、ぬるぬる、クリトリスに、塗って、あ、あ、これが、いいのおっ、ふあつ、気持ちいい、のおっ！」

双葉

「剥き出しのクリトリス、う、はあつ、こ、こんなに乱暴にしたら、あ、ああんっ、ビリビリするうっ、ん、んんっ、すぐ、ふ、はっ、すぐイっちゃ、ううううううッッ！！！」

双葉

「ん、はっ……あ、はあつ……はあつ、はあつ、はあつ、はあつ、はあつ……」

双葉

「ああ……もうイっちゃった……動画、エッチで気持ち良かったけど……はあ……なんか……いつも通りなんだよねえ」

双葉

「やっぱり慣れちゃったのかなあ。もっと刺激がないと、ちゃんと満足できないのかも……」

双葉

「でも、刺激って言ったって、うちだとエッチな本を買うのだって難しいし、通販利用したって学校に行ってる間にお母さんが受け取ったりしたら大変だし……」

双葉

「はあゝっ、ローター欲しい、バイブ使ってみたい、ローション全身に塗って全裸オナニーしたい」

双葉

「……こんな事思うの私だけかなあ。友達のみんなはどうしてるんだろ。……オナニー、してるよね？」

双葉

「もしかして、みんなは持ってるのかな。ローターとかバイブとか……どうやって買ってるんだろ」

双葉

「……やっぱりお店に行っているのかな。隣町に少し大きなアダルトショップがあるし、みんなそこを利用してるのかも……」

双葉

「私も……行ってみようかな。ちゃんと変装すれば大丈夫だと思うし……今からだったら明るいうちに帰ってこられるはずだし……」

双葉

「……うん、何事も行動を起こさないと始まらないよね。学校の先生からも、もう少し積極性を出していいって言われてるし。きっとそれが今なんだよね」

双葉 「こんな事もあるうかとお小遣いもずっと貯めてきたし……よしっ！」

双葉 「こ、こんなものかな？ これなら大丈夫だよね？ もしも、友達がお店にいたりしても私だってバレないよね？」

双葉 「き、緊張してきた……（深呼吸）す——っ、は——っ、す——っ、は——っ……大丈夫……落ち着いて……ちよっと買い物するだけなんだから」

双葉 「お使いで豆を買ったりニンジン買ったりするのが、ローターとバイブになるだけなんだから」

双葉 「きつと……！ 大丈夫っ……！」

／＼★トラック2…街にはドキドキがいっぱいで少女はすぐオナニーしちゃうの
●町中（駅前のイメージ）

双葉 「わあゝっ、この時間帯でも結構人いるんだ。こっちのほうに来たの久しぶりだけど、こんな感じだったかなあ」

双葉 「色々寄ってみたいお店はあるけど、今日は我慢我慢。大切な目的があるんだから」

双葉 「えっと、電車に乗って、隣町で降りて、北口から出て真っ直ぐに歩けばいいんだよね」

双葉 「よし、余計な事は考えずに、今日の目的に集中
集ちゅ……………って……………えっ!？」

双葉 「な、何あれ？ あの男の人、なんであんなに股
間を膨らませてるの？ ぼ、勃起してるの？」

双葉 「でも、こんな場所で勃起するなんて変だし……
も、もしかして、あれで通常サイズなの？ だ
としたら、勃起したらいったいどれだけの大き
さに……………」

双葉 「あ、ダメ。見ちゃダメ。そんなの失礼だし、誰
かに気付かれたらなんて思われるか……………」

双葉 「でも、本当にすごい。あんなのが入っておまん
こ擦られたら、やっぱり気持ちいいのかな？
セックスってした事ないけど、漫画とかだと大
きいほうが気持ちいいみたいだし」

双葉 「み、見てみたいなあ。どんなおちんちんなんだ
ろ。やっぱり勃起すると、太くて反り返ったり
するのかな？」

双葉 「ああ……………想像してたらムラムラしてきちゃっ
た。オナニー……………オナニーしたくなっちゃった
よお」

双葉

「どこかできないの？ オナニーできる場所なの？ こんなにいっぱいお店があるんだから、そういうのができるお店があった方がいいのに……どうしてオナニー屋さんはないの？」

双葉

「ダメダメ。何を変な事を考えてるの？ そんなお店があるわけないじゃない。もっと冷静になって」

双葉

「今日は目的があるの。こんなところでオナニーできる場所なんて探してる暇はないの。電車だって一本逃したら、二十分は待たないといけないんだから」

双葉

「でもでも、あんなおちんちんを見ちゃったら、やっぱりそれをオカズにしたいくなるのは人として当然だし、こんなチャンス逃したら一生後悔するかもしれないし」

双葉

「あの人はずっと同じ場所に立ってるから、遠くからでもいいから、ずっと眺められる場所できるといいんだけど……」

双葉

「だからダメだってば！ あの人が見える位置からするってことは、あの人からも自分も見られる可能性があるってことじゃない！ そんな事になったら社会的に終わっちゃう！」

双葉

「落ち着いて。冷静に。今日だってよりよいオナニーをするための道具を買いに行くだけなんだから。それまでちよつとの我慢。……電車で移動して、お店に行つて商品を買つて帰つて来るまでの我慢でしょ！」

双葉

「でも、……買い物に行くのはいつだってできるけど、あの人のおちんちんを想像しながらオナニーするチャンスは今しかないの。本当の意味で冷静になつて。このチャンスを逃したら、どれだけ後悔するかわからないのよ」

双葉

「それにほら……、あそこの路地の奥のほうだつたら、真つ直ぐにあの男の人を見ることができて、それでいて他の人からは見つかりにくいはず」

双葉

「あの人がいつまであそこにいるかもわからないんだし、こうなつたらもう善は急げだよね！」

双葉

「ここならいいはず……うん、バッチリあの人が見える。それに、ちょうど横からの角度になつて、盛り上がつておちんちんの形もわかる」

双葉

「やっぱり大きい……どう見ても亀頭は上を向いてるよね。まるであの人のズボンが透けて見えるみたいに、おちんちんの形が想像できる！」

双葉

「こんなの想像しちゃったら、もう我慢できないよ。ここで服を脱ぐわけにはいかないけど、ちよつとスカートをめくって、パンツの上からおまんこをいじるくらいだったら……」

双葉

「ふ、はあっ……あ、あ……今まで、いっぱいオナニーしてきたけど……んっ、外でするのは、あ、初めて……あ、あ、しかもこんな……街中で……」

双葉

「ふあああっ、ゆ、指で軽く撫でてるだけなのに、んんっ、気持ち、いい……いつもと、ふ、あ、全然違う……んあっ、体が、感じやすく、なってる……んふあっ!」

双葉

「あ、ああっ、ふあ、んっ……声、出ちゃう、あ……ちよつと、擦るだけで……んんうっ、ビリビリする」

双葉

「はあっ……はああっ……熱い……体が、燃えているみたい……ふ、あっ……これ、す、すごいよお」

双葉

「すごく感じて……あ、ふあっ、おまんこ……んあっ、濡れて、きてる……あ、んああっ……こんな早く、濡れるなんて……あああっ……!」

双葉

「普段、い、家でしてるときは、んあっ、こ、こ
こまで早くないのに……んく、あ、ふああっ…
…ああ、どんどん、溢れてくる」

双葉

「はああっ、気持ちいい……気持ちいいよ……オ
ナニ―気持ちいいよお……！　こんなに気持ち
良かったら、あ、はああっ、すぐ、イ、イっ
ちやうよお……！」

双葉

「ああ、あの人の、おちんちん、んんうっ、見た
い……想像じゃなくて、本物、見てみたいよお
……そしたらもっと、んんんっ、き、気持ち良
く、なれるのに……」

双葉

「はあああっ、本物のおちんちん、本物のおちん
ちん、本物のおちんちん、本物のおちんちん、
本物のおちんちんんんうううっ………！」

双葉

「あ、はあっ、ああっ……パンツ、濡れて……あ
ああっ、もう、この辺に、しとかなきゃ……ん
んっ、このままじゃ、ふあっ、パンツ、
んうっ、びしょびしょに、なっちやう、ん
んあっ！」

双葉

「でも、んあっ、濡れたら、濡れた分だけ、ふ、
あっ、指で、パンツに、んんうっ、押し込む
たいにして、んっ、んっ、強く、擦ったら、ん
んんうっ、もっと、いい……気持ちいいっ…
…！」

双葉

「ダメ！ んくうつ、ここで、ふ、あつ、やめるなんて、んあ、うつ、そんなあ、んんっ、もつたいない事、で、できない」

双葉

「はああつ、あのおちんちんを見ながら、ああつ、もっこりした股間を見ながらのオナニー、ふ、あああつ、さ、最後まで……最後までしたい……！」

双葉

「はあつ、はああつ、擦って、ん、ああつ、おまんこ擦って、もつと、ふ、あつ、指、に、2本……んんっ、3本にして、あ、んんっ、あの人のおちんちんで、こ、こすられてるみたいにして……ふあああつ！」

双葉

「はあああつ、イ、イきそう、指で、んあつ、あ、はあつ、想像だけど、ふ、あつ、おちんちん、パンツで擦られてるみたいに、して、あ、あつ、イク、おまんこ、お、ふあつ、おまんこイクッ、イっちゃ、う、ううつ……！」

双葉

「うう、ん、ん、くうつ、ふううつ、イクッ、う、イクイクイク、ん、ううつ、おまんこイクウウ、イっちゃうう、のおおお、んひやああつ、おまんこイっちゃうのおおおっ……！」

双葉

「んんんんんんんんんッ……！」

双葉

「く、ふっ……ふううっ……ん、ふ……ん、ん、く……ふううっ……！ イっ……ちやつた、ああ……」

双葉

「あ、あ……お汁、垂れちゃう……こんなに、濡れちゃう、なんて……」

双葉

「あ……あの人、行っちゃった……はああ………まるで、私のオナニーが終わるのを待っててくれたみたいに……」

双葉

「えっ！？ まさか本当にそうじゃないよね！？ 気付かれたりしてないよね！？」

双葉

「ううっ、でも、もしも本当にそうだったら………も、もう行こう」

／＼★トラック3…電車の中でも周りに人がいないと少女はすぐオナニーしちゃ
うの

●電車の中

双葉

「あ、良かった。この車両、他に誰もいない」

双葉

「はあゝっ、疲れたあ。まさか電車に乗る前に、あんな事しちゃうなんて」

双葉

「で、でも、あれは仕方ないよね。漫画とか動画以外であんなに大きなおちんちんを見たの初めてだったし」

双葉

「あんなの創作物だけのものだと思ってたけど、本当にいるんだ……」

双葉

「あ、ダメ。思い出したらまたしたくなっちゃう。外の景色でも見て気を紛らわせないと」

双葉

「ああ……いい景色……電車に乗るのも久しぶりだし……なんだか気持ちが穏やかになってくるかも……」

双葉

「この辺ってちよつと電車で移動したらのどかな田園風景が広がってて、子供の頃から電車に乗るたびにずっとこの景色を見てたんだよね」

双葉

「最近はずっかり忘れてたけど……うん、やっぱり好きだなあ。ずっとこの景色を眺めてたら、オナニ―の事も忘れられそう」

双葉

「てっ？ ……え、えっ……えっ！？ 今見えたのって……み、見間違い？ 大きな木の陰のところに、男の子と女の子がいたように見えただけど……っていうか、キスしてたように見えたけど……」

双葉

「確かにあの場所だったら他の人には見えないし、安心してキスできるかもしれないけど……」

双葉

「恋人同士……だったのかな？ きっとそうだよ。キスしてたんだし……」

双葉

「いいなあ。そういう人……恋人がいたら……
…きっとオナニーだけじゃなくて、セックス
だってするよね」

双葉

「あ……、もしかして、あの人達ってあの場所
で………いい、いや、それはないよね。さすがに
……外だし………ないと思うんだけど……」

双葉

「でも、確かにあの場所って周りからは見えにく
いし……電車が高い位置を走ってたからたまた
ま見えたけど……見えたとしてもどこの誰かな
んてわからないし……」

双葉

「しちゃう、のかなあ……見たのはキスだったけ
ど、今はもう少し先まで……え、えっちなこと
……してたりするのかなあ………そうだとし
たら………いいなあ」

双葉

「私も……もしも……もしも彼氏がいたら………
…あ、ヤバイ。ムラムラしてきちゃった」

双葉

「こ、こんなところで……電車の中でオナニーな
んてできないのに………」

双葉

「でも、周りには誰もいないし、車掌さんが来る
わけでもないし………ちよっとくらいだったらい
けるのかも……」

双葉

「ダメダメ！　いくら何でも電車の中なんて危険過ぎるよ！　誰か来たらごまかしようがないんだから！」

双葉

「……でもでも、確かに椅子に座って大きく足を開いたりしてたらバレちゃうかもだけど、たとえば出入口付近に立って窓のほうを見てたら？　……人が来たらパツて背中を見せればバレずに済むかも……」

双葉

「バレるに決まってるって！　もうちょっと我慢すればショッピングでアダルトグッズを買って、自分の部屋で好き放題オナニーできるんだから、ここは我慢しなきゃ！」

双葉

「でもでもでも、電車の中でオナニーする機会なんて滅多にないし、こんなふうに車両に人がいないなんてもう二度とないかもしれないし……」

双葉

「そう……もう二度とないかもしれないんだから……このチャンスはしっかりと掴まなきゃっ！」

双葉

「うん、ここでしなかったら絶対後悔するよね。見つかったら見つかった時だよな」

双葉

「オナニーする場所は……あそこが良さそう」

双葉

「ここから窓のほうを向いて、車内にはなるべく背中を見せるようにすれば……ああ、ドキドキしてきた」

双葉

「スカートの中に……手を入れて……」

双葉

「は、ああ……パンツ、まだ濡れてる……んんうっ……！ オナニーしたら、あ、ふあっ、また、濡れちゃう」

双葉

「ん、んんっ……大丈夫、だよね……んふっ……誰も来なかったら……誰にも、あ……バレないよね」

双葉

「それよりも、ん、く、ん、あんまり、き、気持ち良さそうな、顔、してたら……んあっ……外の人達に……バレたり、あ、あ……しないかな？ んんっ、し、しないよね？」

双葉

「電車は、動いているんだから、あ、あっ、見えたって、んんうっ、一瞬、だよね」

双葉

「だったら、んあっ、だ、大丈夫な、はず……ふあ、う、はあっ……こんな顔……見られたって、んあっ、だ、大丈夫……ふ、あっ、見られたって……んんうっ、見られても……」

双葉

「見られても、んく、あ、大丈夫、なん、だった
ら……ふ、あつ、ああつ、お、おっぱい、見ら
れても……大丈夫、だよな？ 見られたって、
ひんつ、ど、どこの誰かなんて……んううつ、
わからないんだから……」

双葉

「それ、なら……それなら……ああ……」

双葉

「ああつ、こ、こんなところで、私……あ、
んつ、おっぱい……ふああつ、おっぱい、だ、
出しちゃった……あ、んああつ、は、恥ずかし
い……」

双葉

「恥ずかしい、けど……んあつ、でも……ふ、
あ、はああつ……こんなの初めてで……ドキド
キして……ああ……」

双葉

「おっぱい、出してるんだから……んんつ、乳
首、とか……ふ、あ、いじっても……い、いい
よね」

双葉

「あ、あつ、指で……カリカリしたら、あ、ふ
あつ……き、気持ちいい……ふ、んああつ……
……」

双葉

「ど、どうしよう、んつ、う……こんなに、き、
緊張して、ふあつ……でも、あ、なんか……は
あつ、気持ちいい……」

双葉

「まさか、あ、んうつ、電車の中で、オナニー、
んんんっ、する日が、あ、くる、なんて……
あ、あ、あああっ……!」

双葉

「えっ? あ……今、そ、外にいた人……ん
んっ、私のほう、見てた? 気のせい、か
な?」

双葉

「でも、んんうつ、き、気付かれたのかも……
く、ふうっ……電車で、お、おっぱい、出
してる女がいるって……ん、ん、見られ、
ちゃったのかも……」

双葉

「そうだと、したら……ふ、あっ……さ、さつき
の人に、んんんっ、おっぱい、見られた?
ああっ、見られちゃった、のかな? ふあ、あ
ああっ、初めて……し、知らない人に、ふ
ああっ、おっぱい見られちゃったあ」

双葉

「ど、どうしよう、んあっ、どんどん、ドキドキ
して、きた、あ、ふああ、うつ、オナニーが、
き、気持ち良く、なっちゃう」

双葉

「乳首、んくうつ、か、硬くなって、く、ふう、
ううつ、おまんこも、ん、んっ、クリが……
あ、あ、パンツの上からでもわかるくらい、ん
んんっ、クリトリスが、ふ、膨らんで、硬く
なってる、う……」

双葉

「あ、あつ、気持ちいい、んあつ、感じ、
る、う、ふあつ、ん、あああつ、おっぱいも、
んん、乳首、グリグリって、すると、お、は
あつ、あああつ、感じ、ちやう……!」

双葉

「はあつ、はあつ、気持ち、良すぎて、ふ、
あつ、ダメ、あ、これ……んああつ、よ、良
きる、う、はあつ……ど、どんどん、濡れちや
う」

双葉

「こ、こんな、の、んあつ、もう……パンツが、
ぐちよぐちよ……ん、んっ、履いてたって、
い、意味、ないよ、お……!」

双葉

「はあつ、ああ、ん、あ、また……外の人、わ、
私を、見た……んんっ、電車の、動きに合わせ
て、ふ、あつ、こっち、見てた……あ、あ、
おっぱい、み、見られちゃった、あ、あ、オナ
ニー、してるそこ、ふあつ、し、知らない人
に、見られちゃったあ……!」

双葉

「あ、あ、ゾクゾク、するう、んんっ、オナ
ニー、見られるなんて、あ、ほ、本当に……ん
ああつ、こんな事が、あ、できる、なんて……
し、知らなかった……ふああつ、電車オナ
ニー、さ、最高っ!」

双葉

「誰も……んうつ、誰も来て、ないよね？ あ
あつ、も、もうちよつと……もうちよつとだけ
……ん、うつ、イ、イけそう、だから……！」

双葉

「もっと、んくつ、ぬるぬる、を、ふあ、おまん
この、お汁、ん、んんっ、ぬるぬるのお汁、
もっと……ク、クリトリスに、塗って……
んはあああつ、これいいっ！ クリトリス、ぬ
るぬるにしたら、あ、はああつ、たまらな
いっ！」

双葉

「こんなの、もう、んんっ、パンツいらない……
履いてたって意味ない」

双葉

「これで……あ、あ、もっと激しく……んあ
ああっ、クリトリス、あ、んんっ、乳首とクリ
トリス、グリグリして、ふ、あ、ああああつ……
……気持ちいいよおおおっ……！！！」

双葉

「わ、私、こんな……んあつ、オナニー好きな、
ふ、あ、あつ、人より、お、多いことは、わ
かってたけど……あ、はああつ、こんな、外
で、あ、外でして、んあつ、こんなに、興奮で
きるなんて……」

双葉

「私い、んんっ、へ、変態さん、だったのかも……ん、ん、んううっ、外でオナニーして、んふあっ、だ、誰かに……んんっ、もっと、外の人に、み、見られたいって、思い始めてるんだもん」

双葉

「あ、また……今度は指差してた……ぜ、絶対見られた……私の、んんっ、おっぱい、ふ、あっ、乳首、グリグリして、あ、んんっ、オナニーしてるところ……!」

双葉

「はあっ、はああっ、もっと、グリグリって、ん、うっ、クリトリス、か、皮を剥いて、剥き出しにして、ん、くうっ、指で、擦って、ふあ、あっ、摘まんで、ん、んっ、ひ、引っ張るのも、いい……!」

双葉

「ふあああっ、お汁が、どんどん垂れて……パンツも履いてないから、あ、あ、床に、落ちちゃう……んくうっ、電車、汚しちゃ、あ、はあああっ……! で、電車のお掃除してる人、ごめんなさい」

双葉

「んん、んううっ、でも、我慢できないの、お、ふああっ、おまんこ、ひくひくして、ん、んっ、もう、クリトリスだけじゃ、あ、あっ、我慢できなくて、んんっ、もっと、奥まで……おまんこの奥も、ふあああっ、気持ち良く、なりたい……!」

双葉

「ああ、おまんこの中に指をつっこみたい。おまんこの中に指をつっこんで、ぐちゅぐちゅに掻き回したい。そしたらもつと気持ちいいだろうなあ」

双葉

「ダメだよ。そんな事したらおまんこ汁がもっこぼれて、もつと床を汚しちゃう。そしたら、お掃除する人がもつと大変になっちゃうよ」

双葉

「でも、電車オナニーのチャンスなんてこれが最初で最後かもしれないし、それなら思いっきり気持ち良くなっておかないと損だし」

双葉

「ダメだつてば！ 人の迷惑の事を考えられないようになったら、人として終わりだよ。電車オナニーして女の子として終わっても、人としては終わっちゃダメだよ」

双葉

「でもでも、電車オナニーしてる時点で人として終わってるような気もするし、だったらことんやっちゃったほうが得だし」

双葉

「本当にダメだつてば！ もしも人が来たら、オナニーをしてるところがバレなくても、床が濡れてるのを見てばれちゃうかもしれないんだよ！」

双葉

「でもでもでも、もうここまできたらおまんこぐっちゃぐちよにしてイきたいし……絶対そのほうが気持ちいいし……！」

双葉

「ああ、もうダメ……考えてるうちに、手が勝手に動いちゃう！」

双葉

「んはあああああつ……！ ゆ、指いつ、ひ、おまんこ、ぬるぬるで、んあつ、に、2本も、んんっ、簡単に、は、入る……くふああつ！」

双葉

「あ、あ、これっ、おまんこの中、あ、擦って、ひ、あつ、そ、想像してたより、んあつ、ずっと、いいっ、気持ちいいっ！」

双葉

「ひゃあ、あつ、はあつ、クリトリス、グリグリ、しながら、あ、んくあつ、おまんこズボズボするの、お、さ、最高おおっ……！」

双葉

「おまんこ汁っ、こ、こぼれちゃうけど、お、ふひゃあああつ、もう、し、仕方ないよね！？ んあああつ、これ、こんなのすぐ、イクッ、ん、んっ、うううっ、イっちゃう、う、イクッ、イクイクッ、おまんこイクッ、電車オナニーでイクウッ……！」

双葉

「あ、また見てる、う、あつ、外にいた人、あ、ああっ、私のこと、み、見てた、あ、ああっ、見てっ、もっと見てっ、みんな見てっ、ひ、あああんっ、私の……私のオナニー見てええっ……！」

双葉

「イクッ、ん、ああっ、声も、が、我慢できないっ！ お、おっきな声、出ちゃう！ はあっ、あ、ひ、ひやああああっ！！」

双葉

「わ、私、イクのっ！ 電車の中でっ、ち、乳首とクリトリス、グリグリしながら、はあああっ、おまんこズボズボしながら、あ、ああっ、おまんこ汁垂らしながらイクのっ、おおおっ、おまんこイクのおおっ！！」

双葉

「ああああっ、もうホントに、ダメッ、イクッ、う、くううっ、イクッ、イクッ、ん、んんっ、イクッ、イクッ、イクイクッ、イクウッ、う、ううっ、うううううっ……………
……………」

双葉

「おまんこイっちゃううううううううううう

——ッ——ッ……………」

双葉

「ん、ふああうっ、はっ……………は、あっ、あああっ……………んはああああ……………」

双葉

「はあっ……………はあっ……………はあっ……………はあっ……………はあっ……………はあっ……………はあっ……………はあっ……………はあっ……………はあっ……………」

双葉

「ああ……………頭、と、飛んじやい、そ……………床……………
……………、こんなに、濡らしちゃった」

双葉

「あ、この景色……もうすぐ駅に着いちゃう……
こ、ここから離れないと……」

双葉

「うっ、パンツ、床に置いてたからすごく濡れ
ちゃってる……もう、こんなの履けないよお」

双葉

「で、電車の掃除する人、ごめんなさい。ついで
に処分しちゃってください」

／＼★トラック4…公園で休憩してても鉄棒を見たら少女はすぐオナニーしちゃ
うの

●人気のない住宅街の道

双葉

「はあ……はあ……はあ……頭がフラフラする……
…電車の中のオナニー、すごく気持ち良くて激
しくしちゃったからだよね」

双葉

「さっきの駅、人が多めに乗って来てたし、今頃
大騒ぎになってるかも……」

双葉

「でも、あんなチャンス二度とないかもしれない
し、やっぱり気持ち良かったし………あ、ダ
メ。思い出したらまたムラムラしちゃう」

双葉

「あれ？　ここ、公園なんだ。……ちよつとここ
で休もうかな」

●公園

双葉

「はーっ、ベンチに座れて良かった。ここで体
力回復してから行けばいいよね」

双葉

「……いい天気。ポカポカして気持ちいい。こうやってぼんやりしてたら、オナニーの事も忘れられそう」

双葉

「って、忘れるわけにはいかないけど。ローターとかバイブを買うために、わざわざ来たんだから」

双葉

「でも、今はちょっと忘れてもいいかも。またここで変な事思ったら、オナニーしたくなっちゃうかもしれないし」

双葉

「まあ、誰もいない公園でムラムラしたりするはずがない………あ、鉄棒………」

双葉

「そういえば、私がオナニーにハマッタきっかけも鉄棒だったっけ。鉄棒に片足をかけてぐるんって回ったら、それがすごく気持ち良くて……友達に気付かれないように、何度も同じ回り方して……」

双葉

「でも、そういえば一緒に遊んでた女の子も何度も同じ回り方してたような……アレってもしかして、あの子も気持ち良くなったのかな？ お互いに遊んでるフリをして、鉄棒におまんこ擦ってたのかな？」

双葉

「鉄棒に………おまんこ、擦る………」

双葉

「この公園、誰もいない……。それに鉄棒の位置が、トイレの建物の陰になってるから、周りからはちよつと見えなくなってる」

双葉

「トイレの壁に一番近い鉄棒だったら、こっそり使っても誰にもわからないんじゃない……」

双葉

「ダメよ。私、何を考えてるのよ。公園の鉄棒は子供達が使うものなのよ。オナニーするための道具じゃないのよ」

双葉

「でも、確かにそれはわかるけど、私がオナニーにハマるきっかけになったのは鉄棒なんだから、その責任を取ってもらうべきじゃないの？」

双葉

「何を言ってるの！ 私がオナニーにハマったきっかけの鉄棒はこの公園の鉄棒じゃないのよ。責任を取ってもらう筋合いなんてないじゃない」

双葉

「でもでも、うちの近くの公園はいつも子供達がいっぱいだから、鉄棒を使うことなんかできないし……そうよ！ これはチャンスなのよ！」

双葉

「ダメダメ！ 私、今、パンツ履いてないんだから！ 鉄棒なんてしたら……それこそ、片足を上げて回ったりしたら、鉄棒に直接おまんこをくつつけちゃうことになるじゃない」

双葉

「でもでもでも、だからこそこれはチャンスなのよ。大丈夫。ウェットティッシュはもってるから、回る前に拭いて、回った後にも拭けば綺麗になるよ。むしろ、普段から誰も拭いたりしないんだから、私がオナニーした後の鉄棒はいつもよりも綺麗になってるはず！」

双葉

「そうよ！　そう考えれば Win-Win の関係じゃない！　何も躊躇うことなんてなかったのよ！」

双葉

「誰もいないし……やるなら今しかないよね」

双葉

「鉄棒なんて何年ぶりだろ……まだちゃんとできるかな？」

双葉

「えっと、まずはしっかりと拭いて………うん、こんなものかな。あとはこれに飛び乗って………」

双葉

「よっと……えっと、こうやって……片足を引っかけて………あ、やっぱりこの体勢だと、おまんこがぴったりくっつく」

双葉

「……冷たくってちょっと気持ちいい。でも、おまんこのぬるぬるが、もう鉄棒についちやう」

双葉

「これで……ぐるっと回れば………こ、こんな感じ、かなっ！」

双葉

「んひゃっ!？ ……………あ、ああ、今のって……ち、ちよつと痛かったけど、でも、気持ち良かった」

双葉

「あ、あっ…………ぬるぬる…………こうやって鉄棒に塗り付けたら…………も、もっと、気持ち良くなるんじゃない…………ん、んんうっ…………!」

双葉

「あ、ヤバイ…………おまんこ、鉄棒に擦りつけるのって…………ものすく気持ちいい」

双葉

「もう一回…………もう一回このまま回ったら……………んんっ!」

双葉

「ひゃわああああっ!! これ、ヤバイよ。思ってたよりずっと気持ちいい。こんなの知っちゃったら…………あ、あっ、もっと、こうかな? 鉄棒に押し付けるみたいにして、おまんこ擦り付けたら…………」

双葉

「ふあああっ、ああ、ん、はっ…………ヤバイ……いっ、これええっ、は、あっ、学校の教室で、んんうっ、机の角におまんこ擦り付けたことはあったけど、んふああっ、それとは、ぜ、全然違う…………んんんっ!」

双葉

「おまんこ、濡れてきちゃう、う、んんうっ、ぬるぬるで、ふ、あっ、ああっ、クリトリスが、また、膨らんで…………あ、あ、鉄棒に擦り付けるの、い、いいっ!」

双葉

「でも、ダメなのに、んあっ、休むために、ん、ううつ、公園に入ったのに、く、ふっ、これじゃ、ああっ、また、疲れちゃう、う、んんうつ、もっと……疲れちゃうよお」

双葉

「こんな事しちゃ、あ、だめ、ふあっ、子供達
が、遊ぶものなのに、んあっ、はああっ、こ
ん、お、おまんこ、擦り付けて、ふあんっ、お
まんこ汁、ぬ、塗りたくって、んああっ、こ
れ、犯罪だよ。器物破損、んんうつ、おまんこ
汁塗りたくり違反だよお！」

双葉

「んはあああっ！ 回るたびに、おまんこが気持
ち良くなってくる！ あ、ああっ、鉄棒がおま
んこ汁でぐちよぐちよになって……でも、と、
止まらないよお！」

双葉

「ああああっ！ ク、クリトリスが、押し潰され
るみたいに擦られて、くひああっ、こ、こんな
に強い刺激、は、初めて……あ、んあああっ……
……！」

双葉

「おまんこ、ビリビリして……ふ、あっ、お、お
しっこ、漏れちゃいそうだよお……あ、あ
あっ、こんなところでした、ダメ、なのにい
……！」

双葉

「あひやあああつ！！ もう、これ、ああつ、気持ちいいつ、鉄棒才ナニ―気持ちいいよおつ！
手でするのは全然違う気持ち良さだよおつ！！」

双葉

「体がふわふわして、あ、ああ……力を抜いたら、鉄棒から落ちちゃいそうで……でも……！！」

双葉

「んくあああつ！ イ、イクツ、ああつ、もう、今日は、あ、あつ……もう2回も、イ、イってる、のに、い、ひ、あああつ……！！」

双葉

「きやはあああああつ！！ ああつ、おまんこが、ビリビリして、んは、あつ、へ、変な声、出ちゃう、う、んんんつ、でも、もつと……もつと回りたい。もつと回って、はあつ、はあつ、おまんこぐりって擦り付けたい！」

双葉

「んはあああつ！」

双葉

「ひやわあああつ……！！」

双葉

「くひいいいいいっ……！！」

双葉

「あひやあああああああつ……！！ ああ、あつ、気持ち、いい……い、1回まわること、に、ひっ、イ、イっちゃってるみたい」

双葉

「ひやはあああっ！！んはっ、あ、ああうっ、もつと、お、んくううっ、もつと、お、おおっ、もつと、れ、連続で……！」

双葉

「んはっ！？」

双葉

「かはああっ！」

双葉

「ああああおおっ！！！」

双葉

「ぐひひひひひっ！！ひ、ひいつ、変な声、出ちゃう、う、はあっ……あああっ……！！！」

双葉

「も、もう、ああっ、刺激が、強すぎて、ふ、はあっ、ああっ、もう一回、ま、まわったら、あ、ああ、絶対に、イク……んううっ、思いつきり、イ、ちゃう……」

双葉

「んぐううっ、グリグリって、っ、強く、う、うっ、おまんこを、鉄棒に押し付けて……んひいつ！こ、これだけでも、気持ちいい、のに……」

双葉

「あ、ああっ、腰を前後に揺すっただけで、ふあっ、おまんこ汁の音、する……ぐちゅぐちゅしてる……」

双葉

「こんな……こんなエッチな音……外で、出すなんて……私……へ、変態、なのかも……今日、すっごく、変態になっちゃってるのかも……」

双葉

「でも……あ、んんっ、いいよね？ だって、あふ、あ、こんなに、き、気持ちいい、ん、だもん……もう、変態でもいいよね」

双葉

「あ、ああっ、あああっ、腰振ってるだけで、イク、う、おまんこイク、イキ、そう……も、もう、我慢できないっ！」

双葉

「イっちゃうけど……ぐるって回ったら、ぜ、絶対イっちゃうけど……もう、こんなの……あ、ああ……回らないわけにはいかないよおっ……」

双葉

「ひゃわあああああああああああ——

——ッ……！——」

双葉

「あっ——」

双葉

「うぐっ……！……う、けほっ、こほっ……う、あ……あああ……」

双葉

「ああ、私……こ、こんなところで、おしっ……おしっこしちゃってる」

双葉

「みんなの公園なのに……子供達が遊ぶ場所なのに……こんな事しちゃ、ダメ、なのにい……」

双葉

「ああ、でも、気持ちいい……いったあとのおしっこ……野外放尿……ちよつとやってみたかったんだよねえ」

双葉

「ふああああっ、おしっこ気持ちいいよおお……」

双葉

「はああ……はああ……はああ……
はああ……はああ……はああ……
……」

双葉

「ふ、拭かなきゃ……鉄棒……ううっ……子供達が、つ、使うもの、なんだから……」

双葉

「拭いて……早く……お、お店に行かなきゃ……」

双葉

「私の目的は……オナニーすることじゃなくて……オナニーする、道具を、買うことなんだから……」

／＼★トラック5…アダルトショップでローターを買ったら少女はすぐオナニーしちゃうの

●道路沿いの歩道

双葉

「はあっ……はあっ……はあっ……はあっ……
あった……目的のお店……ここだ」

双葉

「公園からそんなに離れてなかったのに……はああっ……すごく、時間がかかった」

双葉

「おまんこから、おまんこ汁が垂れるの、止まらないけど……もう、いいよね……ちゃんと変装してるんだから……大丈夫だよね」

双葉

「あの……すいません」

双葉

「やった……買えた……念願のローターとバイブ……それ以外にも色々……本当に買えちゃった」

双葉

「あとはこれを家まで持ち帰れば、心おきなくオナニーができるんだ」

双葉

「どんな感じなんだろう。やっぱり、ものすごく気持ちいいのかな？ 意識が飛んじやうくらいすごいって感想も見たことあるけど……」

双葉

「そういえば、ローターを乳首とかクリトリスにつけて街中を歩くって動画を見たことがあるけど……テープも買ったから、今ならやろうと思えばできるんだよね」

双葉

「でも、どれだけすごい刺激かわからないし、人ごみの中で悲鳴を上げたりしたら取り返しのつかないことになるし……」

双葉

「それだったら、声を出さなかったらいいのよね？ 絶対に声を出さないようにすれば、ここから家に帰るまでの間、ずっと気持ちいい刺激を味わうことができる……」

双葉

「ダメよ。そんな危険な事絶対にダメよ。ただでさえ何度もイって敏感になってるんだから」

双葉

「でも、せっかくローターがあるのに、普通に帰るなんてもったいないかもしれないし……」

双葉

「ダメだってば！ そんな安易な考え方をしてると、本当に誰かに気付かれちゃうよ！」

双葉

「でもでも、それは気付かれないようにすればいいだけだし……それに、今までだって何かにつけてオナニーしてきたんだから、ローターを使わなくなったらって私きつとどこかでオナニーしちゃうし……」

双葉

「そういう考え方だからダメなの！ もっと自分の意思を強く持たなきゃ！」

双葉

「でもでもでも、大好きなオナニーをやめるなんてできないし、できそうなチャンスがあったらやっぱりしちゃうし……それならローターだって使ってもいいはずだよね」

双葉

「家まで……家まで刺激を我慢すればいいだけだから……あそこなら人目につかずに、ローターを取り付けられるかも……」

双葉

「これで……あとはポケットの中のリモコンのスイッチを入れれば……」

双葉

「大丈夫……声を出さないようにすればいいだけだから……家まで我慢すればいいだけだから……だから……」

双葉

「ふぎやわッ！！？ あ、ああああッ！！？ な、何、これえっ！？ こ、こんなに……！？ あぐ、あつ、うあああつ、こんなにすごいのか！？」

双葉

「こ、これで、うくあつ、ち、乳首も、クリトリスも、お、うぐうううつ、ビリビリするうううつ！！」

双葉

「は、はあつ、あああつ、これで、い、家まで帰るなんて……ぐ、ふうつ……でも、う、ううつ、かえ、らなきゃ……」

双葉

「呼吸を……く、ふっ……と、整えて……んぐう、ふ、ふうつ……ふーっ……ふーっ……ふーっ……気持ちをお、落ち着かせれば……大丈夫、だから……」

双葉 「んんんうつ、か、帰らなきゃ……帰って……うつ、オナニー……しなきゃ……」

双葉 「ふうーっ……ふうーっ……ふうーっ……お、おまんこから、おまんこ汁が、ああっ……溢れてる」

双葉 「な、なるべく、う、足を開かないように、ひ、いっ……歩かなきゃ……うつ、もう、イ、イきそう……」

双葉 「耐えなきゃ……ぐ、うつ……我慢、し、しなきゃ……あ、あああつ、でもおお……」

双葉 「ぐひひひひひひひひひひッ……」

双葉 「い、いひっ、ひ、ひっ、ひいっ……い、いきなり、イっちゃった……ああ……」

双葉 「家まで、が、我慢どころか……ああ、うつ……ぜ、全然、我慢できない……なんて……うつ、こ、これ、本当に……家まで、か、帰れるの?」

●公園

双葉 「ふううーっ……ふううーっ……ふううーっ……ふううーっ……ふううーっ……」

双葉 「あ、ここ……んうつ……さ、さっき、オナニーした公園……」

双葉

「でも、もうここに寄る必要は……んくうっ、
な、ないし……う、うっ、休みたいけど……ん
くうっ、休んじゃダメ……」

双葉

「行かなきゃ……く、ふっ、帰らなきゃ……あ、
あああっ、でもおお……す、すごいよおっ、乳
首とクリトリスう、んんっ、ビリビリく
るうううっ……!」

双葉

「こんな、のお、あ、また……またイク、う、う
うっ……イク……おまんこイク、う、う
くううっ……!」

双葉

「くひいいいっ!! ひ、ひい、いっ……いつ
ちゃ、あ、あああ……い、行かなきゃ……
か、帰らなきゃ、ああ……」

●電車の中

双葉

「はああっ……はあああっ……あ、あ
あっ、電車の振動で、え、くうっ、し、刺激
が、っ、強く……んんっ……!」

双葉

「誰も、いない、車両だから、あ、い、いいけど
……はあっ、あっ……もう、おまんこ汁、と、
止まらない、ああ、この電車も、ふああっ、お
まんこ汁で、よ、汚しちゃってる」

双葉

「足が、ガクガクして……んうつ、でも、た、立たないと……んくつ、倒れたら……そんなの誰かに見られたら……人が、来ちゃうかもしれないし……」

双葉

「でも、パンツも履いてなくて、んんうつ、おまんこ、こんなに濡れ濡れで……く、ふっ、座るわけにはいかないし……」

双葉

「き、気持ちを、んくつ、落ち着けて……ふ、ううつ、んんうつ、でも、くふっ……ローターの振動と、電車の振動が、か、重なって……くひ、ひいっ……そ、外を歩いてる、ときより……んんんっ、ず、ずっと、気持ちいい」

双葉

「は、はひっ、こんな、の、あああっ、涎が、出ちゃう……んはああっ……こんな顔、してたら、あ、うあっ……また、で、電車の外の、人に、んうつ、見られちゃう、く、ふっ、恥ずかしい顔、見られちゃうよお」

双葉

「あ、あっ、私、また、オナニー、してるんだよ、くふ、あっ……ローターで、あ、あっ、乳首と、クリトリス、う、ビリビリ、して、ふ、はあっ……イきそう、に、なってるんだよ」

双葉

「ふああっ、おまんこイク、う、おまんこ、イク、イク、ううつ、おまんこイっちゃうよおお……!」

双葉

「ひはっ、あ、はあっ……はああっ……あ、あ、また……気持ち、いいのが、うああっ、の、ぼってきて、ふあ、あ、あ、あっ……!」

双葉

「ダメ、なのに……ん、はっ、ああっ、ここで、イっちゃ、あ、あふあっ、ダメ、なのに……!」

双葉

「げ、限界、んく、ああっ、乳首も、ク、クリトリスも、ひっ、痺れ、え、ああっ、イ、イきまくなって、敏感に、な、ってる、から、あ……あ、あ、あっ……ああああっ……!」

双葉

「ここでイったら、は、ああんっ、また、床を、く、ふっ、汚しちゃう、のに……んひゃああっ、行くと、き、よりも、ふ、あっ、もつと、び、びしゃびしゃに、し、しちゃう、のに……!」

双葉

「もう無理っ、イ、イクッ、んくうっ、おまんこ汁っ、出るっ、う、はああっ、おまんこイクッ、イクッ、う、う、うっ、うんんんっ、おまんこ汁うっ、イっちゃうううっ……!」

双葉

「かはあああッ!? あ、あうあっ……ああ、また、で、出た……ふああっ……イ、イっちゃっ、て、あ、おまんこ汁……ううっ、おまんこ汁で、汚し……ふああっ、ビリビリが、あ、と、止まらないよお……!」

双葉

「おまんこ汁が止まらないよおおおお……
……！！！！」

双葉

「あ、あ、びしゃびしゃって、あああつ、音が、
すごい、ひっ……こ、こんなの、うああつ、
お漏らし、してるのと、んく、あつ、か、変わ
らない……ふああああつ……！！」

●町中（駅前のイメージ）

双葉

「はあああ……はあああ……はあああ……
……はあああ……はあああ……」

双葉

「あと……もう、少し……もう少しで、うち、だ
から……ああ……そこまで、は……倒れ
ちゃ、ダメ……」

双葉

「うつ、く……ひ、ひいつ、ビリビリ、
が、あ……んく、う、はあつ……乳首、も、お
……んんうつ、クリトリス、もお……く、ふっ
……こんな、あ、ずっと、され、たら……ああ
ああつ！」

双葉

「おまんこ汁、はあつ、ああつ、おまんこ汁
が、あ、うあ……もう、ずっと……止まらない
……あ、ああ……道路に、ひ、くうつ……ずっ
と、シミが……」

双葉

「倒れちゃ、ダメ……誰かに、み、見られたら、
あ、あつ……は、恥ずかしくて、ひ、いつ、こ
の町に、す、住めなくなっちゃう」

双葉

「だから……ああ、だから……もう、少し……
が、我慢……んんうっ……!」

双葉

「あっ!？ くは、あああっ……イ、イかない、
で……あ、ああっ、イったら、また……お、お
おっ、おまんこ汁があああ……!」

双葉

「ぐひいいいいいっ! い、いいっ、い
いいいっ……イっちゃ、あ、った……ああ、あ
……!」

双葉

「はあっ……はあっ……はあっ……い、意識を、
しっ、かり……うちまで……あと、少し……な
んだから……」

双葉

「うちに帰ったら……い、いくらでも……オナ
ニーできるんだから……」

双葉

「あ、ああ、ローターと、バイブ……バイブは、
お、おちんちんの、形、してる……やつだから
……い、いよいよ、私も……ふ、ふふっ……」

双葉

「ああ……うちが……見えて、きたあ……」

双葉

「っ、着いた……やっと帰ってこれた……」

双葉

「ああ、もう、うちの廊下も玄関からおまんこ汁
でベトベトだけど、掃除は後回しでいいよね」

／＼★トラック6…イきまくりながら買い物を終えて帰宅した少女はすぐオナ
ニーしちゃうの

双葉

「それよりも……ああ、これ……」

双葉

「ああ、本物……夢にまで見た本物のバイブだあ……本当に買ったあ」

双葉

「もう我慢できない。早く入れたい。おまんこはぐちよぐちよだから、準備はできてるし……」

双葉

「布団の上で……いいよね。きつとおまんこ汁でびしょびしょになっちゃうけど、あとで洗えばいいんだし……」

双葉

「バイブの感触に集中したいから、ローターは外して……あとは……鏡……おまんこにずっぷりバイブが入るところ、ちゃんと見たいもんね」

双葉

「んしょっ……角度はこのくらいかな。これなら、はつきりおまんこが見えるし……」

双葉

「あはっ、すっごい……おまんこぐしょぐしょ……濡れ濡れで光ってるみたい」

双葉

「じゃあ……いいいよ……最初はバイブは動かさないほうがいいよね？　楽しみは最後にとっておかないと」

双葉

「まずは……ゆっくり擦り付けて……あ、ひあっ……！　？　あああっ、これだけで気持ちいいっ」

双葉 「ああ、クリトリスに当たるだけで……あつは
あああつ、すっごく気持ちいいよおっ！」

双葉 「ふああつ、ああああつ……家の中だから、す、
好きなだけ、声出せるし……あ、あ、オナニー
気持ちいいっ！ オナニー大好きいっ！！」

双葉 「ふあ、あ、あつ、もっと……ああ、入れて、ほ
しい……それ、バイブ……お、おちんちん……
おちんちん入れてええ……」

双葉 「あんっ、ああんっ……ク、クリトリス、ばっか
り……ふあつ、擦らないでえ……！」

双葉 「お願い……お願いだから、おちんちん……ん、
んんっ、おち、んこ……おちんこ入れてえ……
……」

双葉 「ふ、ふふっ、あはっ……ここなら、なんだって
……この前プレイしたエッチなゲームみたいに
……げ、下品な事だって、い、言えちゃう」

双葉 「あああつ、ほしい……おちんこほしい、おちん
こほしいのお、それえ、あ、あつ、おちんこ入
れてえ……」

双葉 「私の濡れ濡れのおまんこに、その大きなおちん
こ入れてえ、おちんこでおまんこ掻き回してえ
……」

双葉

「は、あっ……あはあっ、体が、こ、興奮して、熱くなってきたやう……わざとらしいかなって、思ったけど……ち、ちよっと、いいかも……」

双葉

「はあっ、はああっ、もっと、は、恥ずかしいこと、言った、ほうが……ああ、興奮して、か、感じやすく、なれるかも……」

双葉

「ふああっ、おちんこ……おちんこほしい………
…太くてたくましいおちんこ………んっ、おちん、ぽ……おちんぽが、ほしいの、お……」

双葉

「おちんぽほしい、おちんぽほしい、おちんぽほしい、あああっ、おちんぽほしいのおお………!」

双葉

「そのたくましいおちんぽを、私のいやらしい濡れ濡れ変態まんこにずっぴり押し込んでええ……!」

双葉

「あっ……あはああああああっ………
……!」

双葉

「は、入って、きたあ……あ、あ、バイブが……
おちんぽバイブが、ずぶずぶって………んんっ、おまんこの壁、擦ってる……」

双葉

「ふあ、んっ……おちんぼの、形、あ……わかる……ん、んっ、本物の、おちんぼと、同じ……ああ……」

双葉

「ひ、あっ、ブツブツが、あ……おちんぼバイブの、ひ、表面の、ブツブツが、あ、擦れて……あ、んうっ……すごく、く、ふっ、気持ちいい」

双葉

「き、きゅうりで、した、こと、あったけど、あ、あんっ、んんっ、こ、こっちのほうが、あ、ずっと……ずっといい」

双葉

「はあっ、あ、やっぱり、んんっ、ゆ、勇気を出して、んくっ、あ、か、買ってきて、良かった、あ……!」

双葉

「あ、ああ、あああっ、ズブズブ、入って、う……擦れ、て、あ、気持ち、いい、感じ、ちゃう、んはっ、感じ過ぎ、る、ううう……!」

双葉

「んっ、は、ああうっ、奥に……おちんぼバイブの、先っぽが、あ、あっ……これ、し、子宮に届いてる……子宮に、んんっ、ゴツゴツって、当たって、る、うう……!」

双葉

「そっか、あ、んはあっ、おちんぼが、あ、と、届いたときの、感じて、ん、あっ、こういう、感じ、なんだあ」

双葉

「ふ、うつ、あとは、ゆっくり……んんっ、動かせば……」

双葉

「んひゃっ!? あああっ、擦れるううつ……ちよつと、う、動かただけで……んんっ、く……おまんこの壁が、あ、あああっ、ゴリゴリって、して……たまらない……!」

双葉

「はあっ……んふああっ……もつと……あ、んんうつ……おまんこ、気持ちいい、あ、ふあっ……おまんこ、おちんぽバイブで、ずぶずぶされて、んはっ……濡れて、きた、あ、おまんこ汁、あああっ、また、溢れてきたあ……!」

双葉

「これ、あ、これがいいの、お、これを、ふ、あっ、ずっと、あ、ああっ、味わいたかったのお……!」

双葉

「私、い、今、あ、おまんこ、っ、使ってる、んだ、あ、あんっ、おちんぽバイブ、だけど、お、あ、あっ、セックス、みたいな、あ、感じに、なってるんだあ」

双葉

「んはっ、んはあっ……もつと、してえ、あ、あはあっ、おちんぽバイブう、もつと、んんんっ、動かして……! 攻めて、あ、んんっ、攻めて、ほしい」

双葉

「ひあああつ、おまんこ、が、ああつ、ほ、ほぐれて、ひ、あつ、柔らかく、な、なってる、感じが……ん、んんつ、もつと、し、締め付けな
いと……」

双葉

「ここ、あ……んはっ、ああ、ここ、いい……
ん、んっ、おまんこの、ここ、あ、擦れると……
す、すっくく、う……気持ち、い、いい……
……」

双葉

「それに、んあ、うっ、おまんこ汁の、音も、
ふ、あつ、ぐちゅぐちゅ、鳴って、ん、ん
んうっ、もう、さ、最高、あ、はああつ……
……」

双葉

「んはあつ、ふあつ、は、あああつ、んっ、あ、
ああつ、ひ、あ、はああつ、ん、ふあ、ん、
は、ああ、あんっ、ああんっ、ん、ん、ん
んうっ、はっ、あああああつ……！！」

双葉

「でも……んんうっ、まだ、ゆ、ゆっくり、動か
してる、ふあつ、だけなのに……ん、んっ、こ
れで、おちんぽバイブのスイッチを入れたら……
……あ、あ、どうなるの？」

双葉

「た、楽しみは、ん、うっ、後に、とっておきた
い、けど、でも……ああ、おちんぽバイブの振
動で、おまんこ、ム、ムチャクチャに、か、掻
き回され、たい……！！」

双葉

「オ、オナニー好きな、あ、んんうつ、変態エロまんこ、ううつ、もっと、メチャクチャの、グ、グチャグチャにしたい、さ、され、たい、ん、う、ううつ、あ……!」

双葉

「無理、んくあつ、もう、無理だよ。が、我慢、できない。ひ、あつ、うああつ、お、おちんぽ……おちんぽバイブの、振動で、んはあつ、私の、ド変態淫乱まんこつ、ぐっちゃぐちゃに、掻き回したいいいっ!」

双葉

「きやはあああああああああああ——

——ッッ!……!?!」

双葉

「あああああつ、な、何これええつ!?!?す、すごつ、お、おお、おうつ、おおおうつ、ん、くっはあああああああああああッッ!……!」

双葉

「お、おおつ、おまん、こおおおつ、ゆ、揺れ、てっ、かはあつ、あ、あああつ、イクツ、こんなのすぐイっちゃう、う、ううつ、イクツ、おまんこイクツ、おまんこ、おおつ、おまんこイクツ——」

双葉

「くううあああああああああああ

——ッッ!……!?!」

双葉

「で、でも、お、まだ……う、動かさなきゃ、あああつ、この、ブルブルしてる、おちんぽバイブをおおつ、メ、メチャクチャに、動かして、え、あ、ああつ、もつと、イ、イぎ、たいつ、ぎひいいいいつ……!」

双葉

「もう、うぐ、おおつ、おおおつ、おまんこおつ、壊れてもいいからああああツツ……!」

双葉

「ふぎやつ!? ああつ、ぐ、ひやあああつ……! これ、うああつ、これこれこれええつ……! うあああつ、し、振動してる、おちんぽバイブうう、んぐあつ、動かして、は、はひいつ、擦れ、あ、んはあああつ……!」

双葉

「ゴリゴリ、擦れて、かはああつ、いいつ、これええつ、た、たまらないつ、あ、あ、あああつ、イグツ、イグイグイグツ、ううううううつ……!」

双葉

「くはああああツ……! ああつ、す……! お、ひつ、い、意識、と、飛ぶつ、ううう、ぐ……! ん、ぐ、ぐううあああつ……!」

双葉

「お、おまんこおつ、おおうつ、か、掻き回されてえつ、ひや、はあああつ、し、死ぬつ、ううつ、こんな、は、激しい、のおつ、うああおおつ、死ぬううううつ……!」

双葉

「でも、お、おう、おおっ、イグッ、おまん
ごお、イ、イぎ、まぐるううっ、うぐああ
ああっ！！　ごんなオナニいいっ、は、はじ
めでえっ、んぎゃ、は、うっはああああッ
ッ！！！！」

双葉

「ひやはああっ、とぶっ、あ、んぎゃっ、ああ
あっ、おまんごじるううっ、と、とびちって、
ひ、ぎあああっ、でもおっ、これえっ、ズボズ
ボ、す、好きっ、い、ひいっ、すぎいいっ、だ
いしゆきいいいいっ！！！！」

双葉

「ぐっはあああっ、また、いった、あああっ、ま
たイグッ、れ、連続うううっ！！」

双葉

「はぎゃ、あっ、ひやわあああっ、イグイグイグ
ッ、ううううっ、何度もおっ、イ、イ、イっ
ぢやうのおおおおおッッ！！！！」

双葉

「ふぎゃああああっ、ああっ、は、あああっ、
う、もう、こ、このまま、ずっと、お、
おおっ、ずっと、したいいいっ、ひいっ、し、し
んぞ、お、停まり、そっ、だけど、お、おお
おっ、うっ、ずっとおおっ……………！！」

双葉

「もういいっ、ひ、いいっ、これ、でえっ、んぐ
は、ああっ、しん、ぞっ、おおっ、う、と
まっ、でも、お、もう、いいっ、んぐおおっ、
それでもお、い、いいのおおっ！！！！」

双葉

「しんぞおおっ、どまつ、でも、い、いいが
らあ、ああああっ、お、おなにいいいっ、ず、
ずっと、じだいいいいいっ！……！」

双葉

「うぐああっ、イグッ、イグイグイグッ、イグイ
グイグイグイグイグッ、うううっ、イグウウウ
ッ、イグウウウッ、い、いんらん、へんた
いっ、どエロまんこおおおおっ、イ、イイイ
イッグウウウウウウウウウッ！！
！……！」

双葉

「んぎやはあああああああああああああ
あああああああああ——

ッ

ッ！……！」

双葉

「あ、ああ……あ……あああ、あ……
………」

双葉

「はあっ……はあっ……はあっ……
バイブう……飛んで、いって……はああ……床
に、落ち、ちゃった……」

双葉

「ああ、もう……死ぬ、かと……思う、くらい……
………気持ち、い、良かつ、たあ………」

双葉

「あは、はっ……おまんこ汁、飛び、まくって……
……布団……びしょびしょだ………」

双葉

「後片付け……しないと、いけないけど……
はあああ……体……動かない、よ……」

双葉

「こんなに、気持ちいい、オナニー……初めて……
……あのお店……まだ、他にもいっぱい商品
あったし……また、今度……買いに行っちゃお
うかなあ」